

南相馬市復興有識者会議
意見シート

南相馬市復興有識者会議 意見シート

委員名	上 昌広
-----	------

現在、復興ビジョンの策定にあたっては、南相馬市復興市民会議での意見、市民意識調査の結果、市民意見募集の結果を踏まえ、復興ビジョンの基本理念、基本方針、主要施策を取りまとめているところです。

委員の皆さまには、これらの内容を踏まえ、ご専門の立場から以下の内容についてご意見をいただき、会議の参考とさせていただきたいと考えております。

I 復興ビジョン(案)について

※第2回市民会議 資料4を参考としてください。

① スローガンについて	やや抽象的な印象があります。
② 基本方針について	<p>健康・安全という視点が抜けているように感じます。南相馬の財産は高齢者です。彼らを活かす町作りという視点も必要だと思います。例えば、介護・医療です。原子力災害に強い町は、介護・医療の基盤がなければ出来ません。</p> <p>また、学校と小児科がなければ、子育て世代は生活できません。まして、世界から英知を結集するのは難しいと思います。</p>

南相馬市復興有識者会議 意見シート

委員名	長野県 飯田市 桑原和代
-----	-----------------

現在、復興ビジョンの策定にあたっては、南相馬市復興市民会議での意見、市民意識調査の結果、市民意見募集の結果を踏まえ、復興ビジョンの基本理念、基本方針、主要施策を取りまとめているところです。

委員の皆さまには、これらの内容を踏まえ、ご専門の立場から以下の内容についてご意見をいただき、会議の参考とさせていただきたいと考えております。

I 復興ビジョン(案)について

※第2回市民会議 資料4を参考としてください。

①スローガン について	<input type="checkbox"/> スローガンとは何か？
	<p>○スローガンは、南相馬市の7万市民の復興に向けた思いを一言で表現し、未来を象徴する重要なものであると認識します。</p> <p>○また、将来を担う子どもたちも含め、全ての市民の皆様的心里に刻まれるものであると思います。</p> <p>○一方で、スローガンは、その内なる思いや未来の姿を、外(復興の過程を支援し、見守る、国・県・市町村に限らず、グローバルな視点から世界)に対して、「南相馬市は強い意志を持って、復興していくぞ!!」ということをアピールするためのものでもあると思料します。</p>
	<input type="checkbox"/> 市民の皆様的心里がこもっていれば…
	<p>○その点では、南相馬市復興市民会議での議論、市民意識調査や市民意見募集を踏まえたものであり、内の視点からは、当方が意見をするものではないと思います。</p>
	<input type="checkbox"/> 外に向けての視点で意見を申し上げると…
	<p>○サブタイトルも含め、「自分たちの生まれ育ったこのまちを愛する気持ち(地域愛)」、「自分たちの力で自分たちのまちを復興して行こうとする強い意志(復興の魂)」を表現すると共に、「未来の南相馬市の姿」を表現する言葉が加わると、一人一人の心里に刻まれるスローガンとして、また、全国・全世界に対するメッセージとして更に優れたものになると感じます。</p>

②基本方針について

□復旧と復興を区分する

今般の災害は、大震災と原発事故のダブルのダメージであり、復旧・復興に相当程度の時間と資金と労力が必要となります。

今後のまちづくり再建過程をイメージすると、復旧期(3年間)、復興期(5年間)、発展期(10年)に区分し、生活再建、土地利用、都市基盤整備、産業復興など、超長期的な視点でのプランニングが必要であり、そのためのタイムスケジュール、資金、仕組み(人・組織・機能)を構築することが必要であると思います。

復旧は、復興期を視野に入れながら、速やかに着手するべきものであると思います。特に道路網の復旧は第一に行なう必要を感じます。

以下、基本方針に関しては「復興」についての意見です。

□基本方針に「人づくり・教育・伝統文化」の視点を

復興は、

- ①人づくり・教育・伝統文化(相馬野馬追など)の復興
- ②生活(医・食・職・住・福)の復興
- ③まち(ハードはもちろん各種都市機能を含めた)の復興
- ④地域経済の復興

が面的に折り重なるように行われなければならないと思料します。

この中でも特に重要なのは、全南相馬市民が夢や希望を持てる「心の復興」であり、復興の担い手となる「人づくり」であると思います。

この点では、極めて厳しい状況下であるにも関わらず行われた「相馬野馬追」は素晴らしいものであったと思います。

野馬追のような歴史や伝統に裏打ちされた崇高な文化やそれを守ろうとする精神のもと、地域の絆をより一層深めていく、地域づくり活動が必要ではないかと思えます。

更に、こうした地域固有の価値や歴史・伝統文化をベースとしながら、復興の担い手となる人材を、学校教育、地域教育、企業教育、社会教育などを通じて育成することが必要であると考えます。

人づくり・人材育成こそがまちづくりにつながると思えます。

□主要施策の構築と基本理念との関係性の明確化を

基本方針は、基本理念を支える柱であり、基本理念と、基本理念を具現化する主要施策をつなぐコンセプトであると考えられますが、そのつながりが明確でないと感じます。

「復興」は、真っ白なキャンバスに絵を描く作業の全てを行うことになりまので、描くものを立体的に三次元で把握することはもちろん、むしろ、筋肉の付き方や細胞レベルでの研究など、対象物を把握しきって描く必要があると考えます。

現段階では、細胞レベル、もしかすると遺伝子レベルでの議論から、積み上げて、全体像の三次元的把握に結びつけていく作業が必要なのかもしれません。つまり、主要施策を明確に構築する過程で基本方針を設定していく方法が求められているのではないかと感じています。

更に、主要施策の構築についても、優先度、スパン・スケジュール、各施策の関係性をひとつひとつ整理する必要があると感じます。

□基本方針-1について

南相馬市への帰郷や生活再建は復旧過程での議論であると認識します。ここでは、絆をベースとした、子どもからお年寄りまで南相馬市民の暮らし、地域福祉、地域医療のあり方を検討し、位置づけるべきではないかと考えます。

□基本方針-2について

南相馬市に限らず、飯田市も同様ですが、リーマンショックからの立ち上がりが発生した今般の震災以降、地域内産業の質的 (quality) ・量的 (quantity) 維持が最大の課題であると考えています。そのための政策の方向性として、「産業再生」と「新たな産業の創造」が謳われており、意義深いものと思います。

ただ、地域経済は、リーマンショックに起因する世界同時不況からの回復期において、パラダイムシフトともいべき構造変化により「多くの変化の渦の中」にあり、これまでの思考、システム、構造では、到底対応できない状況にあります。産業復興は、そうした状況下での地域産業再生であることを認識するべきであると考えます。

課題は、具体的に何をするかです。この地域の強みを生かしながら、今後の南相馬市を支える産業はなにか？キラーコンテンツは何か？ということを出していき必要があると思います。

産業間連携や産業クラスターにおいて、企業や市民がその組み立ての時点から参画し、原資を拠出し、持続可能な運営に共同で責任を持つ仕組みづくりを行う必要があると思います。

また、産業そのものや、生産過程からの波及を内需に向かわせること、それを中心市街地のまちづくりに位置づけ繋げていく必要があると考えます。

□基本方針-3について

災害に強いまちを創造することは最重要課題であると思います。

結集した英知でもって、災害に強いまちを創造し、それを未来に繋げていくためには、「自分たちのまちを自分たちで作り、守り、育て、未来に繋げていく」意味での市民の皆さんの主体的な取り組みが必要だと感じます。

今こそ、市民や企業等に蓄積された「知恵」だけでなく、「経営力」・「資金力」そして、次世代を創造する「イノベーション」を復興南相馬市の災害に強いまちづくりに活かすべく、集約・集中化させる必要があると思います。

南相馬市復興有識者会議 意見シート

委員名	築瀬範彦
-----	------

現在、復興ビジョンの策定にあたっては、南相馬市復興市民会議での意見、市民意識調査の結果、市民意見募集の結果を踏まえ、復興ビジョンの基本理念、基本方針、主要施策を取りまとめているところです。

委員の皆さまには、これらの内容を踏まえ、ご専門の立場から以下の内容についてご意見をいただき、会議の参考とさせていただきたいと考えております。

I 復興ビジョン(案)について

※第2回市民会議 資料4を参考としてください。

① スローガンについて	<p>「生きる」は、「live」ではなく「survive」のような強い意味だと思えます。</p> <p>「心のふるさと」ではなく、「ふるさと」そのものではないでしょうか。どこかで想うふるさとではなく、実体としての南相馬のことだと思います。</p> <p>「ふるさと南相馬で生き抜く」といった強いメッセージ性をこめてはどうかと思いました。</p>
② 基本方針について	<p>時間的なイメージが乏しいように感じました。</p> <p>基本方針1は、今、しなければならないこと</p> <p>基本方針2は、明日には実現させること</p> <p>基本方針3は、未来につなぐこと</p> <p>というように理解しました。それぞれに、「今」、「明日」、「未来」とつけては、どうでしょうか。</p>